

グループ学習 授業実践

～ 小学部1・2年 かずの学習 ～

算数・数学教科会

発表者名 辻 郁子 辻 都史佳

【 2年 】

児童の実態

2桁の数字を見て数唱できる児童もいれば、数を数えるときに指とカウントがバラバラになったり、具体物を10まで数えることができるが、整列していないものは数え間違えたりする児童もいる。
タブレット端末やモニターを使用する授業に意欲的に取り組もうとする。

目標・ねらいとキャリアの観点

<目標・ねらい>

- ・10までの数を数えて、クイズに答えることができる。【コ-③】
- ・課題に取り組むときに、やりたい気持ちを挙手や発声、動きで表現できる。【協-③】

<キャリアの観点>

- ・【コ-③】自分の意見を伝えることができる。
- ・【協-③】気持ち(意思)を表出することができる。

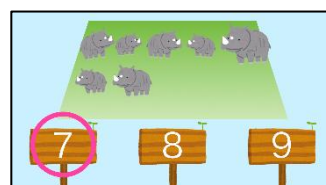
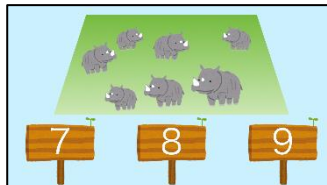
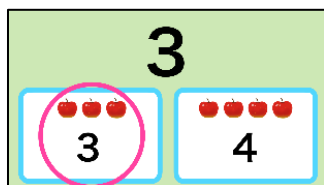
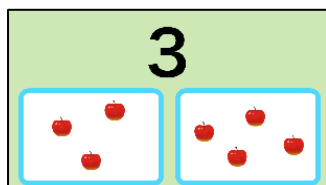
教材の使い方(とルール)

☆モニターに映し出されたICT教材の問題を、一人ずつみんなの前に出て解く。

①数えるものを変えたり、問い方を変えたりすることで、正確に数を数える練習をした。数えることが難しいときは、数える対象を整列させることで数えやすくした。

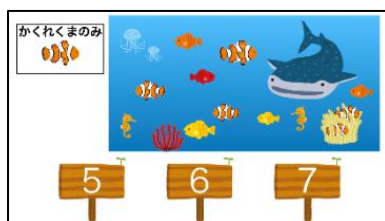
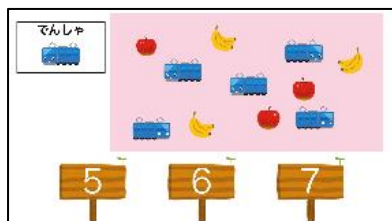
【数字を見て、果物や動物の数を数えて選ぶ。】

【動物や果物の数を数え、数字を選ぶ。】



②仲間分けをして数を数えていく活動に発展させた。

【指定されたものを数える。】



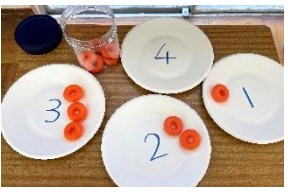


児童の様子

クイズの画面になると、手を挙げたり、「やりたい」と発言したり、積極的にやってみようという気持ちを表出することが増えた。画像や動画などを使って視覚や聴覚に働きかけることによって、楽しみながら学習できた。みんなの前でクイズに正解すると、笑顔になって喜んでいた。

Ⅲ 教科会のポスター発表

【 1 年 】

児童の実態 1～5、1～10まで数唱、数字、数量が理解できている児童。1～5（5以降は正しくは数唱できない。）、1～10までの数唱はできるが、数字とマッチングしていない児童。（生活の中で、順番待ち等で唱えることができる。）数唱が全くできない児童。数字を知らない児童。電子黒板に興味をもち、進んでお絵かきをする児童。	
目標・ねらいとキャリアの観点 かずの学習をするにあたり、数の概念形成を習得するために、1年生では、数の基礎を「数唱」「数字」「数量」の3つの要素と考え、カリキュラムを組んだ。得意なことや、好きなことを活かした活動を多く取り入れた。	
目 標 ・1～10の数字を正しい順番で並べることができる。 ・1～5（徐々に増やす）の数字と数の量がわかる。 ・1～5（徐々に増やす）の数字をなぞることができる。	キ ャ リ ア ・【コ-②】活動したいことを伝えることができる。 ・【見-③】好きなものを選ぶことができる。 ・【ル-④】活動の順番を守ることができる。
教材の使い方・ルール	
●「すうじのうた」・・・①1～10のカードを一人1枚ずつ選ぶ。 ②動画の歌に合わせて、その数字が出た時に、前のボードに一人ずつ貼りに行く。 （画面とカードのマッチング） ③並んだカードを見ながら、1～10までの数唱をする。	
	●「いくつあげる？」・・・①1～4の数字カードを1枚選ぶ。 ②選んだ数字カードを同じ数字のボードのところに貼る。 ③犬にあげたいえさ（ケーキ等の具体物）を数字カードの数だけ貼る。（初めは数字の数だけ枠を作り、その枠の中にえさを貼って、数字と量を目で見えて覚えていく。慣れたら、枠をなくして、お皿にその数だけえさを入れるようにする。） ④犬の口に、数を数えながら、えさを入れる。 ⑤犬からのお礼の言葉を聞く。 （正解なら、スイッチを押すと音声が出る。）
	
●「数字をかこう」・・・①電子黒板を使って、数字の書き始めを★で表し、書き順がわかる動画を見る。 ②電子黒板のなぞり書きの数字を書く。（二人ずつ。児童の目線に合わせた高さで。）	
児童の様子 初めのうちは、クラスを越えた慣れない集団に緊張したり、活動の見通しが立たずに、座って授業をうけることが難しかったりする児童もいたが、活動の内容がわかってくると、落ち着いて活動することができている。かずを学習すると、バスの号線の数字や、生活の中にある数字を見つけては、嬉しそうに教えてくれる姿が見られるようになった。また、「すうじのうた」をグループ学習の時間以外にも歌う姿が見られ、1～10を順番通りに並べることができるようになった児童が増えてきた。カードを貼る際に、友だちが貼って、逆向きになっているものや、ボードに入りきらないものは、子ども同士で修正し合って、最後には正しく並べることができ、協働して作り上げる姿も見られるようになった。数字を見て、数唱できる数字が全員増えた。数字には、順番を表す数字と、量を表す数字があることへの理解をこれからもスモールステップで進めていきたい。	

スライドを作って、発表しよう ～「自分クイズ」の取り組み～

職業教科会

発表者名 西岡 明信

◎生徒の実態



- 中学部3年生 職業1グループ
- 1年生の時から、授業でタブレット端末を利用し、インターネット検索をして調べ学習を行ったり、クイズを行ったりしているグループ

◎「自分クイズ」とは

自分のことをクイズにして、友だちに紹介する取り組み。

- ・好きな食べ物は？
- ・好きな歌は？
- ・好きな色は？
- ・好きなキャラクターは？ など



自分のことを伝える

自己選択・自己決定

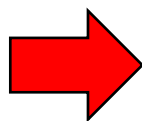
友だちのことを知る

◎テーマを設定した理由

1年生の時から、学年全体の授業で、1年に1回、「自分クイズ」という自分に関するクイズを作成し、教員主体で発表を行っていた。今年度、「自分クイズ」の実施が3回目になり、クイズ用のスライドを自分たちで作成して、発表することにした。



1年生、2年生の時は教員主体



3年生の時は生徒自身で

◎<目標・ねらい>と<キャリアの観点>

■タブレット端末を利用して、自分のことを紹介するスライドを作成（文字入力、画像挿入、アニメーション設定）する。

→【ル-①】道具を正しく使うことができる。

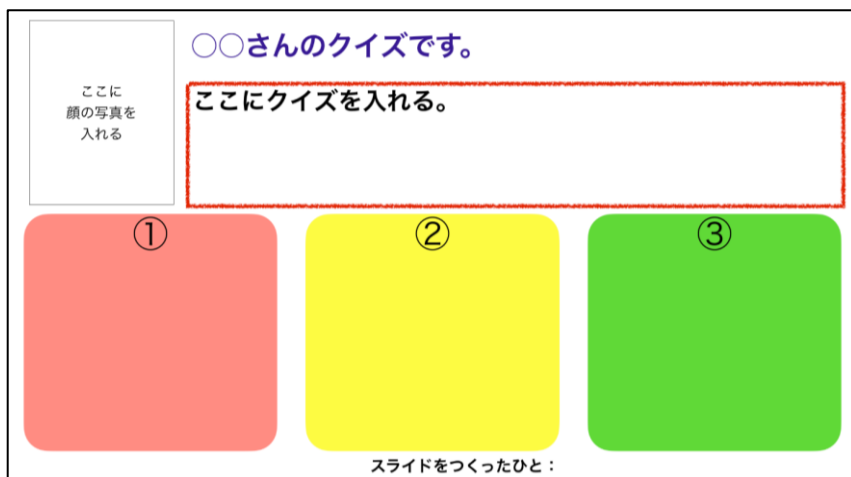
■作成したスライドを使って、自分のことを相手に伝えることができる。

→【コ-③】自分の意見を伝えることができる。



Ⅲ 教科会のポスター発表

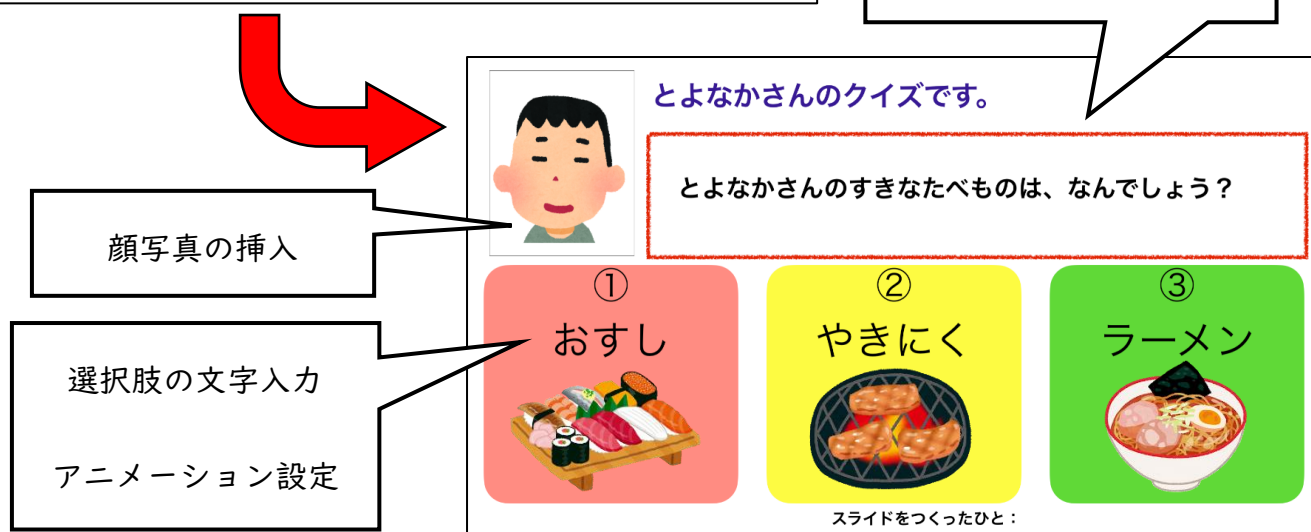
◎スライドの作り方



・スライドを1から作成するのではなく、教員がテンプレート(左図)を準備しておく。

・生徒は「文字入力」「画像挿入」「アニメーション設定」の作業を行う。

名前とクイズの文字入力



※今回、選択肢の画像は、教員が挿入。

◎取り組んだ結果

☆テンプレートを利用することで、基本的な操作のみ作業することができ、「できた」という達成感を得ることができた。

☆他のグループの生徒の「自分クイズ」のスライド作成も依頼されて、繰り返し作業することで、やり方を習熟できた。また、友だちの役に立つ経験にもなった。

☆作成したスライドを使って、学年の生徒たちの前で発表することができた。



◎今後の課題

図形の挿入

動画の活用



作業のミスに気づき、修正する

やり方がわからない時に、助けを求める

小学部1～3年キャリアの段階を意識した集団活動の授業実践

生活科教科会

発表者名

奥山 知美

1. 2020年度入学小学部児童の誕生会の授業及び、テーマ設定の理由について

2020年度入学の児童は1年次で38名、2年次より40名となっている。非常に大きな学年集団であり、1人1台のタブレット端末を使用し、教員がそのすべてを把握することが難しいというのが現状である。そのため、生活科では1人1台のタブレット端末を活用するには至らなかった。以上の理由から、今回のポスター発表ではICTではなく、キャリアの段階に着目してまとめることとした。(ICTを活用した実践については「4.」に記載。)

2020年度入学の小学部児童は、生活科「誕生会」の授業において、最後にゲーム(集団活動)を行っている。生活科「誕生会」とは、各月毎にその月の誕生児童を学年のみんなで祝う授業である。授業前半に誕生児童を祝い、後半残り10～15分程の簡単なゲームを設定している。このゲームにおいて、年度を追うごとにキャリアの段階を踏んでいくことができるよう計画し、実施しているため、この機会に改めて本授業のキャリアについて整理・報告することにした。大きな目標は「集団への参加」であり、集団への参加の仕方や、どのような集団に参加するかに焦点をあてている。

2. ゲームの内容とキャリアの段階について

*1年次

ボール回し・箱車【コミュ⑧友だちと関わることができる。ルール④順番を守ることができる。】

みんなで円になって座り、曲が流れている間、隣の友だちにラグビーボールを渡して回していく。曲が止まったときにラグビーボールを持っている児童がお楽しみで箱車に乗し、円のまわりを回る。曲は教員がCDデッキを操作し、その月の誕生児童がボールを手を持つタイミングで曲を止める。ボールが回ってくるのを待つこと、近くにいる友だちとボールの受け渡しをしながら関わるということを目標とした。1年次では、ゲームに参加することが難しい児童もいたが、1年間を通してルールを理解し、ボールが回ってくる順番を待ったり、丁寧にボールを受け渡ししたりすることができる児童も増えた。



*2年次

旗運びリレー【コミュ⑧友だちと関わることができる。

ルール④順番を守ることができる。

協調①集団に参加できる。】

旗をクラスのかごに入れて戻ってきて、次の友だちにバトンタッチする、クラス対抗のリレーである。前年度に加え、【協調する力】の中から「①集団に参加できる」を追加した。初年次に輪の中に入ることができなかった児童も、集団に参加できることを目標とした。クラス対抗のリ



Ⅲ 教科会のポスター発表

レーということもあり、勝敗があるためこだわる児童への配慮が必要となる。勝敗にこだわりがある児童はいるものの、友だちと協力し、クラスという集団の中で一つの目標に向けて児童が協力する姿が多くみられた。バトンタッチによる友だちへの意識、クラスで優勝を勝ち取りたいという思いから出る「頑張れ」という応援の声を多く聞くことができた。

* 3年次

お花摘みリレー【コミュ⑧友だちと関わることができる。 協調①②集団に参加できる。(①) 協力できる。(②) ルール④順番を守ることができる。】

二人で一つのかごを持ち、お花を一輪摘んでかごに入れて戻ってくる。摘んだお花はクラスの列に置いてある箱に入れて、かごを次のペアに渡す。前年度に加え、【協調】の「協力できる」を追加した。前年度は全員が集団の中でゲームに参加することができていたため、「友だちと協力して」ゲームに参加できることを目標に追加した。実際、積み重ねてきていたこともあり、最初は一人で走って行ったり、かごを手放したりしてしまう児童も多かったが、回数を重ねるごとに友だちと協力できる児童が増えてきている。



3. 考察と今後の課題

初年度から誕生会の後にお楽しみゲームを設定することにより、ゲームが始まる頃には児童の気持ちもゲームにむくようになったと考えられる。また、1年という長いスパンで繰り返し、ステップアップを図ったことで、多くの児童が意欲的に活動に参加することができ、確実に上達することができた。今後も友だちと協力したり、より相手のことを意識したりするなど、集団の中で学ぶべきことを学校生活の中で実践し、充実させていきたい。

4. ICT を取り入れた活動

2年次より、季節と暦、自分の誕生日や友だちの誕生日、また、友だちの誕生日にも興味をもってほしいと思い、誕生会の授業の初めに自作のスライドを「だれにだってお誕生日」の歌に合わせて流している。モニターに映されたものに興味を示しやすい児童が多いことも、スライドを作成した理由である。こちらは何度も繰り返すことで、まずは「いえーい！」という掛け声が大きくなり、次に自分の誕生日に手を挙げられる児童が増え、現在は「〇〇さんだー！」と友だちの誕生日にも反応し、興味をもつ児童が増えてきた。今後も効果的に ICT を用いて授業を組み立てていきたい。

ふいちねん いっかい すてきなひ



高等部 1 年生でのピア・サポートを取り入れた授業実践 ～ピア・サポートのトレーニングによる短期効果について～

社会科教科会

発表者名 高等部 森本 晃介

問題と目的

学校現場では、教員・生徒間の対人関係が円滑に築かれていない場合、授業を成立させることが難しい。著者が担当している「社会」(高等部 1 年生・学習 B グループ)でも同じ様子が見られる。コミュニケーションに課題を抱える生徒が複数おり、暴言が飛び交うことやイライラした状態が続くことがある。このような状況では、生徒が授業に集中できない。そこで、松村(2022)を参考に、授業の導入部分でピア・サポートのトレーニングを行い、生徒の変化を測定することにした。

方法

大阪府立豊中支援学校・高等部 1 年生、学習グループ B グループ 11 名を実践の対象とした。

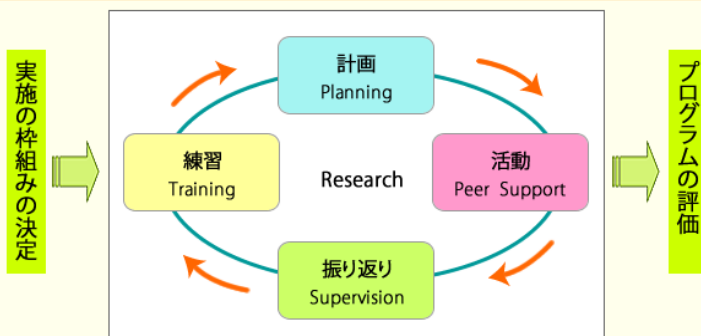
本グループの生徒はコミュニケーションに課題を抱えているが、ことばによるコミュニケーションも可能である。

著者が担当する「社会」の導入部分でピア・サポートのトレーニングの有無による生徒の行動変容の観察を行った。

実践期間は、2022 年度の 2 学期である。2 学期前期をトレーニング無し、後期をトレーニング有りで行った。

資料 1 ピア・サポートについて

ピア・サポート プログラムの構造



ピア・サポート…仲間を思いやり、支える活動のこと
(日本ピア・サポート学会より)

トレーニングについて

資料 1 にあるように、ピア・サポートの活動を行うためには、コミュニケーション能力の向上が必要である。トレーニングはコミュニケーション能力を高めるための実践を重ねる。

生徒(高等部 1 年生、学習グループ B グループ 11 名)のコミュニケーション能力の向上があれば、学習面にも大きな効果があると考えられる。

仮説

授業の導入部分でピア・サポートのトレーニングを取り入れることで、生徒の授業への参加意欲が高まり、集中して学習に取り組むことができる場面が増えるのではないだろうか？

Ⅲ 教科会のポスター発表

実践の概要

松村(2022)では、指導困難校であった公立中学校の音楽の授業で、授業の導入部分で「導入活動」と呼ばれる活動を行った。これにより生徒は落ち着いて主体的に授業へ参加できるようになった。

松村(2022)の実践を参考にし、著者が担当する生徒の実態を踏まえ、授業の導入部分でピア・サポートのトレーニング(コミュニケーション能力を高めるためのトレーニング)を行うことにした。生徒のコミュニケーション能力を育てていくことでコミュニケーション面の不安を少しでも解消し、学習意欲と学習に対する集中力の向上をめざした。実際行ったトレーニング内容についてである。まず教員が生徒の前に立ち、教員の表情と動作を生徒全員でまねを行う「ミラーリング」を行い、全体の雰囲気を和らげることを行った。次に生徒は2人ペアになり、「にらめっこ」を行った。相手を笑わせようとお互いに楽しく時間を過ごすことができた。

結果

トレーニングを
しなかった場合
(無)

生徒間で不要なかかわりが生じやすく、
暴言やケンカが生じる。

→各々の生徒がイライラしており、
学習意欲も低く、学習に集中できない。

トレーニング
をした場合
(有)

生徒間で不要なかかわりが減少した。

→各々の生徒が前向きな気持ちになり、
学習意欲の向上や集中して授業に取り組
むことができる時間が増えた。

考察

授業の導入部分でトレーニングを短時間であっても行ったことで、全体の雰囲気が柔らかくなりお互いに前向きな気持ちになることにつながった。それに伴い、生徒のコミュニケーション面の不安が減少したと考えられる。不安が減ったことで、授業への参加意欲や集中力の向上につながった。加えて、生徒が規律を意識しつつ、「みんな頑張っている。私も頑張ろう！」といったような心理面での変化もあったようだ。

トレーニングは短時間でできるものであり、生徒の問題行動を未然に防ぐ事ができ、教員にとっても授業中の支援が行いやすくなると感じた。今後は、トレーニングの内容を「社会」の内容に絡めたものにしていき、実践を継続したい。それに加えて、トレーニングを継続後にトレーニングを行わなければ、再び授業への参加意欲や集中力の低下が見られるのかといった事象の検討も行いたい。

参考文献

- 松村依莉 2022 中学校音楽科授業における「導入活動」実践の有効性—実行機能の向上に着目して—
日本教育心理学会第64回総会発表論文集
- 森本晃介・市川哲 2022 特別支援学校高等部における軽度知的障害を抱える生徒のピア・メディエーションに関する実践—生徒の主体的な連携による実践— 第37回学校カウンセリング学会発表論文集
- 日本ピア・サポート学会 トレーナー養成標準プログラムテキストブック Version3

家庭科授業の紹介 ～みんな最初は赤ちゃん～

高等部 2年

発表者名 ニノ方 香菜

生徒の実態

基本的には落ち着いて着席して授業に取り組むことができるが、自分から気持ちを発することが難しかったり、取り組みには言葉かけが必要だったりする生徒が多い。一方知っていることは手を挙げて発言できる生徒もいる。

指導の目標

- 1、少子化や核家族化で赤ちゃんに関わったり触れたりする機会が減ってきている中、学習を通して命の尊さを感じることや、家族の協力によって家庭生活が営まれ、今の自分があることに気づくこと。
- 2、今後自分ができることは何かを考え、行動することのできる力をつけること。

時間	授業内容	生徒の様子	教師の気づき
2	映像やスライドを見て赤ちゃんを知ろう（宿題・スライド・映像・プリント） 	宿題・自分が赤ちゃんの時は？ 「すごく小さく生まれたといわれた、公園によくでかけていた」等、答えることができる。 	自分が小さかった時のことを聞いていたり、覚えていたりすることも。 生活と結び付けて、ありそうなシチュエーションを選び言葉かけを考えることができていた。 ロールプレイングしてもよかったかもしれない。
1	こどもの育ちを知る（人形・赤ちゃんの成長/出産映像 NHKforscheol・プリント）	赤ちゃんの栄養はどこからもらうか、お腹の中にある赤ちゃんの周りは羊水で満たされている等、初めて知った生徒も。知らないことがたくさんあるので、「へえ」という反応もあった。	映像では、産休中の教員の映像を使用したことでかなり興味を持っていた。
2	グループで各体験を実施 ・人形の着替え ・妊婦体験 (抱く・洋服・おむつ) (靴下着脱・寝る、等) 	最初は照れてしまい、譲り合いをしていたが、時間が経つと、友達を手伝ったりお互いの動きを観察したり、「抱っこはこうしたらいいんじゃないか」など言葉かけも出てきていた。全員が一通りの体験を行い、楽しんで体験・記録している様子が見られた。	事前に観察者用のプリントを配付して、体験の感想・気づいたことだけでなく、友達を観察しての感想・気づいたことを体験中にメモを取るようにすればよかった。

まとめ

授業を通して、誰もが最初は赤ちゃんで、周りに支えて育ててくれた人たちがいたから大きくなったことに気づくことができた生徒も多かったと思う。「こんなに小さかったんだ」「軽い～」といろいろな声をあげながらの取り組みができた。大きくなった今、自分ならこれができるかな、こうやって関わってみよう、とそれぞれが自分自身のビジョンを持つことができたと思う。

今後の課題

家庭科で学習しない範囲の他教科との連携（保健体育や社会）

総合的な学習の時間や道徳の授業での実践

調理実習での幼児の食事やおやつづくり

保育実習や交流の再開、おもちゃづくり



「靴も靴下も履きにくく〜！」
B,C,Dグループでも体験

「算数」(グループ) 学習指導案

大阪府立豊中支援学校

T1 松原 実

T2 岡田 梨恵

T3 竹田 昂平

1. 日時 令和4年11月17日(木) 第3時限(10:25~11:10)
2. 場所 第2学年4組 教室
3. 学部・学年・組 小学部 第2学年(バスグループ) 8名
4. 単元(題材)名 「魚釣りをしよう」

5. 児童観

本グループは小学部2年生の8人で構成されている。S-M社会生活能力検査の社会生活年齢(SA)は1歳4か月から2歳9か月(令和4年3月の結果)の児童である。数を10程度理解しており、ばらばらになっている具体物を数えられる児童、並んでいる具体物を数えられる児童、また数の理解は難しいが3程度数唱できる児童、数の理解が難しく、数唱も難しい児童。2択や3択で色分けができる児童や色の違いは理解できているが正確に弁別することはまだ難しい児童など実態は幅広い。

集団に入ることが苦手な児童もいるが絵本を見聞きしたり、魚釣りをしたりするなどいろいろな活動の中で参加できる場面もある。

6. 教材観

本グループの児童たちは、これまでも色のマッチングや数を数えるなどの学習をしてきた。まだ、正確には数を理解できていない児童がいたり、色に着目できていない児童がいたりする。そこで、今回の授業での活動の中で数や色に着目し活動する経験を積みたいと考えた。

また、魚釣りを題材にすることで楽しい雰囲気での学習ができるようにし、興味・関心が得られるように工夫していきたいと考える。

7. 指導観

本授業は導入部分でモニターを使い、魚釣りを視覚的にイメージが持てるようにする。机上で学習する時間、その後実際に児童が魚釣りをしながら、数や色に着目できるように活動する時間、最後に振り返りとしてタブレットを児童が操作する時間など、児童の様々な実態に応じて取り組みができるように設定している。本授業のどこか1つでも児童が意欲的に活動できるようにねらいとして実施する。

8. 単元目標

- ・色に着目して、分類する。(知・技)
- ・個数を正しく数える。(知・技)
- ・色に着目し、同じ色の魚に気付き、関心を持っている。(思・判・表)
- ・活動に積極的に参加し、数を数えたり、同じ色の魚を集めたりして、興味を持って活動しようとしている。(学・人)

≪特別支援学校 小学部 学習指導要領「算数科」 1段階 2段階≫

IV 教職員の研究授業

9. 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 10までの範囲で数唱が分かる。 ② 魚の色のグループ分けが分かる。 ③ 魚の個数を正しく数え、理解している。	① 操作を通して、数を数えたり、色分けをしたりしている。 ② 名前を呼ばれたら、自分の順番に気が付き、活動しようとしている。	① 数や色に興味をもち、操作しようとしている。 ② 具体物の数を数えたり、色分けをしたりして、伝えようとしている。 ③ 問題や課題に取り組もうとしている。

10. 単元（題材）のキャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力
① あいさつすることができる。 ⑤ 呼名に応じることができる。	① 集団に参加できる。	④ 順番を守ることができる。
4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
	③ 係、当番、代表等の仕事を遂行できる。	② 見通しを立てて行動することができる。

11. 単元の指導と評価の計画（全9時間、本時は第8時）

次	時	学習内容・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1 2	・魚釣りを知る。	・魚釣りのイメージが持てるように絵本をモニターに映して、視覚的に提示する。 ・魚釣りをしやすいように、磁石を使用するなど教材を工夫する。 ・どのように魚釣りをするか手本を示す。	C①

IV 教職員の研究授業

2	3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・釣った魚の数や色に着目する。 ・魚を色分けする。 ・魚の個数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2択の中から色分けをしたり、3択の中から色分けをしたりするなど、児童の実態に合わせて課題を設定する。 ・数える数を児童の課題に合わせて設定する。 	A① A② A③ B①
3	7 ⑧ 9	<ul style="list-style-type: none"> ・順番が分かり、魚釣りをする。 ・決められた役割を遂行し、魚を数えたり、分けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のチームや順番が分かりやすいように、チームや順番が分かるカードを提示したり、席順を工夫したりする。 ・個々の実態と役割に応じて支援の仕方を工夫する。 	B② C② C③

1 2. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分のチームや魚釣りの順番を知り、魚釣りをすることができる。
- ・数唱したり、数を正しく数えたりすることができる。
- ・色に着目することができる。
- ・同じ色の魚を集めることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・自分の順番に気が付いたりして、活動しようとしている。(B②)
- ・色に着目し、同じ色の魚を集めたり、色分けしたりすることができる。(C②、C③)
- ・魚の数に着目し、数唱したり、数を数えたりする。(C②、C③)

(3) 本時の ICT 活用のポイント (活用のねらい、工夫する点)

- ・絵本を読む際にモニターに映し、大きい画面で見やすくする。また絵本を読む際には、イメージをもちやすいように効果音やアニメーションをつけるようにする。
- ・個別の課題でタブレットを使用することで、タブレットの操作方法に慣れるようにする。効果音などをつけることで楽しい雰囲気での学習できるようにする。

(4) 児童の実態と本時の目標

	児童の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・3色がバラバラになっている状態の中から、色に着目しグループ分けができる。 ・魚と同じ色の入れ物に入れることができる。 ・10程度の数を数えられるようになりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数を正確に数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数える魚が10以下の場合はばらばらになっている状態でも数えられるように、机にばらばらの状態で置く。 ・10程度の場合は数えやすいように並べて配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数唱と個数があったっている。 ・合計の数を指で表している。

IV 教職員の研究授業

B	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ色で同じ形のを、1つずつマッチングすることができる。 ・色に着目し、魚と同じ色の入れ物に入れることはまだ難しい。 ・数の理解はまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色に着目し、2色の魚を1色ずつ同じ色の入れ物に入れる。 ・教員が1つずつ渡した魚を入れ物に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ物に入れることが分かるように、1つ目の魚は教員が入れ物に入れ、手本を示す。 ・教員が1つずつ魚を手渡し、色分けしやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を1つずつ、魚と同じ色の入れ物に入れている。 ・入れ物の色を2択の中から選んでいる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの色の名称を知っている。 ・同じ色で同じ形のものであればグループ分けすることができる。 ・魚と同じ色の入れ物に入れることはまだ難しい。 ・数の理解は難しいが、10程度の数字を読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色に着目し、2色の魚を1色ずつ同じ色の入れ物に入れる。 ・教員が1つずつ渡した魚を入れ物に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ物に入れることが分かるように、1つ目の魚は教員が入れ物に入れ、手本を示す。 ・教員が1つずつ魚を手渡し、色分けしやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を1つずつ、魚と同じ色の入れ物に入れている。 ・入れ物の色を2択の中から選んでいる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ色で同じ形のを、マッチングすることができる。 ・色に着目し、魚と同じ色の入れ物に魚を入れることができつつある。 ・数唱ができる。 ・集団の中に長時間参加することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色に着目し、3色の魚を1色ずつ同じ色の入れ物に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ物に入れることが分かるように、1つ目の魚は教員が入れ物に入れ、手本を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を、魚と同じ色の入れ物に入れている。 ・入れ物の色を3択の中から選んでいる。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ色で同じ形のものであればマッチングすることができる。 ・色に着目し、魚と同じ色の入れ物に魚を入れることがまだ難しい。 ・数の理解がまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色に着目し、2色の魚を1色ずつ同じ色の入れ物に入れる。 ・教員が1つずつ渡した魚を入れ物に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ物に入れることが分かるように、1つ目の魚は教員が入れ物に入れ、手本を示す。 ・教員が1つずつ魚を手渡し、色分けしやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を1つずつ、魚と同じ色の入れ物に入れている。 ・入れ物の色を2択の中から選んでいる。

IV 教職員の研究授業

F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3色がバラバラになっている状態の中から、色に着目しグループ分けができる。 ・ 魚と同じ色の入れ物に入れることができる。 ・ 20程度の数を数えることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10以上の数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数える魚がばらばらになっている状態でも数えられるように、机にばらばらの状態で置く。 ・ 難しい場合は数えやすいように並べて配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数唱と個数がある。 ・ 合計の数を指で表している。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3色がバラバラになっている状態の中から、色に着目しグループ分けができる。 ・ 魚と同じ色の入れ物に入れることができる。 ・ 数の理解や、数唱することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3までの数唱を知り、数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数えやすいように並べて配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員と一緒に数唱し、数唱と個数を合わせる。 ・ 合計の数を指で表している。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3色がバラバラになっている状態の中から、色に着目しグループ分けができる。 ・ 魚と同じ色の入れ物に入れることができる。 ・ 並んでいる10までの数を数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10以上の数を正確に数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数える魚がばらばらになっている状態でも数えられるように、机にばらばらの状態で置く。 ・ 難しい場合は数えやすいように並べて配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数唱と個数がある。 ・ 合計の数を指で表している。

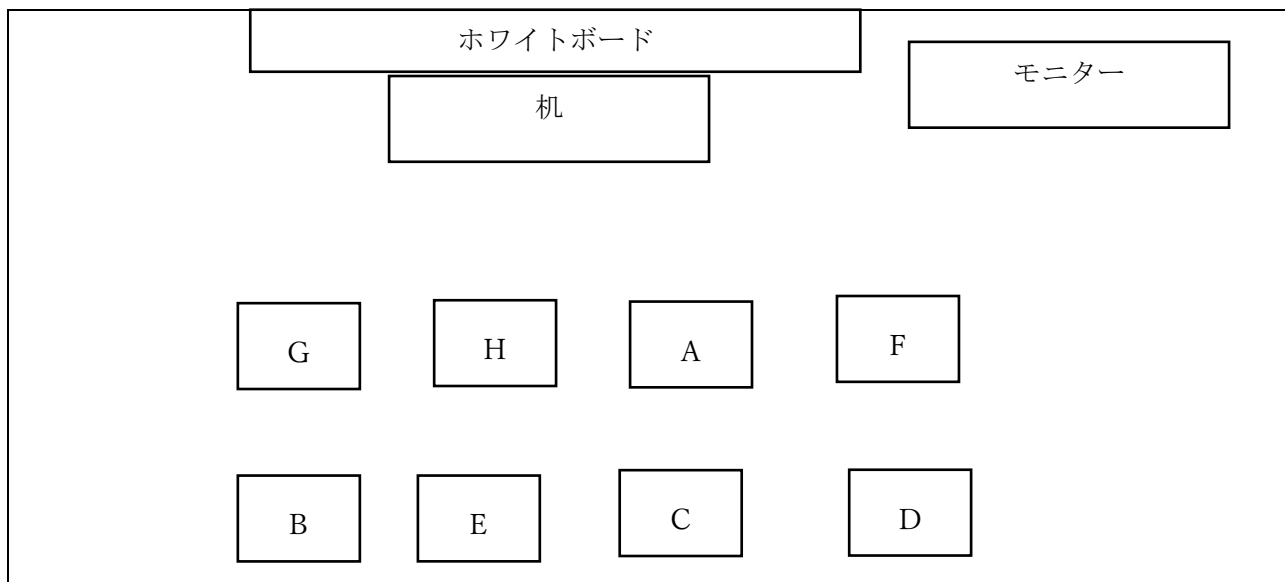
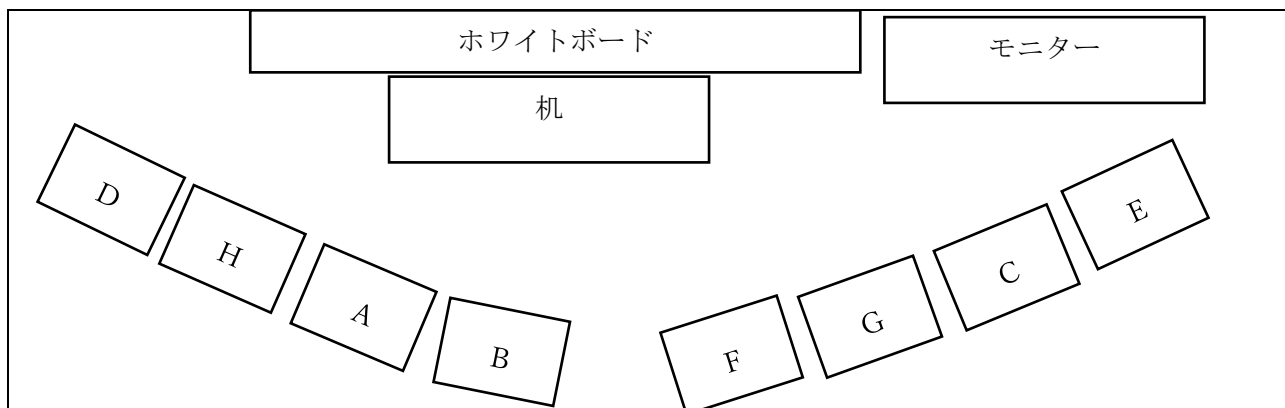
(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導入	<p><u>はじめのあいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の号令に合わせてあいさつをする。 <p><u>スケジュールを確認する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボードに貼ってある予定を確認する。 <p><u>名前呼び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名前を呼ばれたら返事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢を正しくして座るように促す。 ・ 言葉とサインを使って、児童が授業の始まりを意識できるようにする。 ・ 予定が分かりやすいように予定カードをホワイトボードに貼り、簡潔に説明する。 ・ 音声や、教員とタッチなど児童の実態に合わせた返事の仕方の手本を示し、返事ができるようにする。 	

IV 教職員の研究授業

<p>25分 展開</p>	<p><u>絵本「ぎよぎよぎよつり」を見る。</u> ・モニターに映った絵本を見る。</p> <p><u>魚釣りをする。</u> ・魚釣りのチーム、順番を知る。 ・魚釣りをする。</p> <p>・色分けをする。 ・魚の色に着目し、同じ色の入れ物の中に入れる。</p> <p>・数を数える。 ・それぞれの色の魚を数える。 ・チームの合計の数を数える。</p> <p>・どちらのチームが多く魚を釣ったのか考える。 ・今日多く釣った色を知る。</p>	<p>・電子黒板で、アニメーションや音をつけて絵本の内容を楽しい雰囲気の中、絵本の内容が伝わるように工夫する。</p> <p>・音楽を流して楽しい雰囲気になるように工夫する。 ・2チームに分かれ、1チーム2人ずつ魚釣りをする。 ・1組目のあと続けて2組目の児童が続けて魚釣りを行う。 ・釣った魚は同じチームみんなが同じ入れ物に入れる。 ・残り時間を示すタイマーをモニターに写し、児童全員が共有できるようにする。</p> <p>・色分けは両チーム同時に行う。 ・児童の実態に合わせて、1つずつ魚を渡したり、見本を見せたりする。</p> <p>・色分けした魚を教員が表に貼る。 ・児童の実態に合わせて、児童が1人で数えたり、教員と一緒に数唱したりする。 ・児童が数えた数字をホワイトボードに書き、数字を見慣れるようにする。</p> <p>・教員が比較できるように数を確認しながら、どちらが多いか数える。 ・多く釣ったチームに王冠を貼る。 ・各チーム多い色の王冠を貼る。</p>	<p>【B②】 行動観察</p> <p>【C②】 【C③】 行動観察</p> <p>【C②】 【C③】 行動観察</p>
<p>15分 まとめ</p>	<p><u>今日の頑張ったことを振り返る。</u> ・自分が頑張ったことを振り返る。</p> <p><u>個別課題</u> ・タブレットで数、形、色の個別課題を行う。</p> <p><u>おわりのあいさつ</u> ・教員の号令に合わせてあいさつをする。</p>	<p>・児童の頑張ったことを発表して、振り返りやすいようにする。 ・頑張ったことが振り返りやすいようにはなまるのカードを顔写真の横に貼る。</p> <p>・児童の実態に合わせて1人また2人に1台ずつタブレットを使用し、課題に取り組めるようにする。</p> <p>・姿勢を正しくして座るように促す。 ・言葉とサインを使って、児童が授業の終わりを意識できるようにする。</p>	



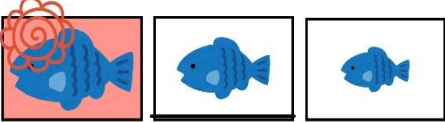
IV 教職員の研究授業



IV 教職員の研究授業

<p>授業の予定</p>	
<p>絵本</p>	
<p>さかなつり</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="427 1128 979 1482">  <p>↑ さかなつり</p> </div> <div data-bbox="991 1120 1444 1447">  <p>↑ 色分け</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="443 1615 979 1984">  <p>↑ 数</p> </div> <div data-bbox="1010 1505 1433 1989">  <p>↑ タイマー</p> </div> </div>

IV 教職員の研究授業

<p>個別課題 クイズ</p>	 <p>クイズ スタート</p>	<p>いちばん <u>おおきい</u>のは？</p>
	<p>いちばん <u>おおきい</u>のは？ →</p>	
		

Ⅳ 教職員の研究授業

小学部研究授業「算数」(グループ) 研究協議

●授業者：本校教諭 松原実

●助言者：本校指導教諭 藤木奈緒子

聞き取り：研究支援部

◎ 授業者より(授業のビデオを見ながら説明、解説)

・呼名の後、絵本を読む活動をしている。テレビモニターに映った絵本に効果音を流しながら読む。繰り返し同じ音流れることで、児童に身振りをするなどの反応が出てきた。最後のサメは大きな、迫力のある効果音なので児童は期待して注視するようになってきた。

・魚釣りの活動では、初め準備は教員が一人でして児童は見ていただけであったが、手伝うことが児童の活動になると思い準備を一緒にすることにした。片付けも児童ができるように、場所を決めたり、わかりやすくマーカーをしたりと工夫した。

・活動中は、明るい音楽をかけて楽しい雰囲気を作りだした。活動時間の提示は、キッチンタイマーを使っていたが、視覚的にわかりやすく親しみやすいことから、現在は「推しタイマー」を使用している。

・魚を釣った後①色分けする(3色が難しい児童は2色に分ける)②魚の数を数える(数えるのが難しい児童は入れ物に入れる)の2つの課題に分けて取り組んだ。②の魚の数を数える課題でも④10までの数を数えること⑤合わせていくつの2つの課題に分け、児童の実態に合わせて取り組んだ。また、どの色の魚が多かったか、どちらのチームの方が釣った魚が多かったかという課題はまだ難しい児童もいるが、次につなげるための課題として取り入れた。

・最後に iPad を一人1台使って、個別のクイズ、課題をしている。画面にロックをかけてこのページだけ開くことができるようにしている。児童は楽しんで取り組んでいる。

◎ 助言者からの感想や助言

・グループ編成の難しさ～発達段階が1歳4か月から2歳9か月、太田ステージ評価であれば、I II III段階に渡るくらい差がある児童集団を一斉授業することは難しい。そんな集団の活動課題の目標設定や実践内容を2本立てにするなどして、同じ教材を使いながら各々の児童の実態に合わせて工夫をしているところが良いと思う。

・PDCA の実践～授業後等に、会議ではなくその日の児童の様子や授業の感想などを教員集団が意見交換することは大切である。その中で気づきや発展があり、それが授業改善(魚釣りの準備や片付け、iPadでの個別課題など)につながることも多い。

・ほめる工夫～授業の中にたくさんのほめる言葉があった。言葉だけでなく王冠シールなどもあり児童をほめる工夫が随所にあった。

・ICT 機器の活用～絵本の効果音、活動時間の視覚化、児童の実態を考慮した個別課題など工夫がたくさんあった。今後も TEAM TEACHING で児童の良いところを一層伸ばしてほしい。

「職業」（しょくぎょう2）学習指導案

大阪府立豊中支援学校

T1 芦田 麻美

T2 寺嶋 亮

1. 日時 令和4年9月26日（月） 第4時限（13：15～14：05）
2. 場所 第2学年2組 教室
3. 学部・学年・組 中学部 第2学年 2グループ 13名
4. 題材名 「レジキーホルダーを作ろう」

5. 生徒観

中学部2年生は45名の生徒が在籍しており、発達段階や身体的な状況に応じて4つのグループに分かれて課題別学習を行っている。本グループは2グループを対象としたものであり、S-M社会生活能力検査によると、社会生活年齢が3歳8ヵ月から8歳4ヵ月（令和3年4月の結果）程度と発達段階に幅があり、一方で授業態度はとても落ち着いており、さまざまな活動に対して意欲的に取り組むことのできる集団である。物作りが好きな生徒も多く、職業の時間を楽しみにしている様子がよく見られる。

認知面においては口頭での指示のみでは理解が難しい生徒が多く、ICTを使った視覚支援や環境の構造化を図ることで理解を深め自ら行動することができるような配慮を行っている。

6. 教材観

中学部には「職業」という教科がある。主に物作りや園芸などを行い、将来の進路につながるような学習をになう教科と言える。

昨今のコロナウイルス感染症の影響で在宅ワークが新しい働き方として注目を浴びている。中には家にいながらSNS等を利用して仕事につなげるといった働き方も見受けられるようになってきた。今回はそのような働き方に注目して、学習指導要領、第2段階、職業分野（ア）より「働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。」という目標に沿って在宅ワークをイメージして物作りと発信を取り入れた学習を設定することとした。

本授業で使用するレジンには100円均一などでもよく目にするようになり、簡単に気軽に物作りができる材料である。本グループの生徒たちは手先の器用さに幅があるため、複雑な工程がなく手先の器用さに関わらず満足できるような作品を作ることのできる教材としてレジンを使用することとした。またレジン作品はSNSなどでもよく見られ、学校ブログを活用した販売活動にもつなげやすいと考えている。

またレジン作業終了後に、ひまわりの観察日記の記録を行う。自分たちで育てた植物に関心を示し変化に気づくことを目的として1、2学期を通して取り組んでいる。

7. 指導観

本授業では話を聞くだけで理解することが難しい生徒が多いため、イメージしやすいように視覚支援を取り入れている。一言で視覚支援といってもさまざまな方法がある。今回の授業ではICT機器を取り入れた方法、ホワイトボードを活用した方法、環境を整備する方法の3つの視覚支援を行った。動画や実際に手本を見せる際には、ICT機器を利用し短時間で集中して視聴することをめざした。ホワイトボードの活用はスケジュールなどいつでも見ることができるようにし見通しを持って活動できることをめざした。環境整備はモンテッソーリ教育の視点を取り入れて、自分で取り組めるような「整備された環境」となるように、箱や道具を利用してその場所で何をすればいいのかが一目見てわかるようにし、一人のできる場面を増やすことをめざした。

このような視覚支援を取り入れて生徒が自分で必要な情報を見つけ自信を持って活動できるように支援していきたいと考えている。またそのような中で報告・連絡・相談の場面を目標として設定することでコミュニケーションスキルを学習し経験を積み上げられるようにしたい。

IV 教職員の研究授業

8. 題材目標

- ・レジンキーホルダーの作業手順を理解して作品を作ることができる。 (知・技)
 - ・作業の終了や次の順番を相手に伝えることができる。 (思・判・表)
 - ・自分なりに工夫して作品作りを行い、意欲的に取り組むことができる。 (学・人)
- 《特別支援学校 中学部 学習指導要領 職業 第2段階》

9. 題材の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①レジンを使った作品を作ることができる。 ②必要な物の準備や後片付けができる。	①作業が終了した際に「できました。」と報告できる。 ②次の順番の相手に「次、どうぞ。」と伝えることができる。	①色や飾りの量などを工夫しようとしている。

10. 題材のキャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力
①あいさつすることができる。 ④報告、連絡ができる。 ⑤呼名に応じることができる。	①集団に参加することができる。	③丁寧な言葉を使うことができる。 ⑩道具を正しく使うことができる。
4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
⑥手指を清潔に保つことができる。	⑤準備、後片付けができる。 ⑥安全に配慮して活動することができる。 ⑩作業のミスに気づき修正することができる。	②見通しを立てて行動することができる。

IV 教職員の研究授業

1 1. 題材の指導と評価の計画（全 20 時間、本時は第 14 時）

次	時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第一次	1 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・レジン液を 1 色選ぶ。 ・型を使って作品を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方の動画を提示したり、ICT 機器を活用したりして視覚支援を行う。 ・道具の扱いに慣れるため作業手順を簡単なものにする。 ・必要な道具や片付ける場所がわかりやすいように環境を整備する。 	A②
	6 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・2 色のレジン液を使って型を用いた作品を作る。 ・ラメなどの装飾を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方の動画や ICT 機器を活用して視覚支援を行う。 ・ラメや色の使い方など実際に手本を見せながら説明する。 ・必要な道具や片付ける場所がわかりやすいように箱等を活用する。 	C① A②
第二次	11 ～ ⑭ 15	<ul style="list-style-type: none"> ・フレームを使ってレジニアクセサリーを作る。 ・活動終了の報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方の動画を見せたり ICT 機器を使って実際に見本を見せたりする。 ・必要な道具や片づける場所がわかりやすいように環境を整備する。 ・できた作品を評価して次のモチベーションにつなげるようにする。 ・報告の言葉を目標として掲示する。 	A② C① B①
第三次	16 ～ 20	<ul style="list-style-type: none"> ・作った作品の中から販売用の作品を選ぶ。 ・販売のための準備をする。 ・活動終了の報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選ぶことが難しい生徒には教員が「プレゼントするなら」などのイメージしやすい言葉をかけながら選択を促す。 ・必要な道具や片づける場所がわかりやすいように箱などを準備する。 ・報告の言葉を目標として掲示する。 	A② B①

IV 教職員の研究授業

1 2. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・準備や片付けを自分で行うことができる。
- ・作業終了の報告を教員にすることができる。
- ・自分なりに工夫して作品を作ることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・必要な道具を順番に取り、所定の場所に片付けている。【A②】
- ・教員に「〇〇先生、できました。」と作品を見せている。【B①】
- ・レジンの色や装飾を自分で選んでいる。【C①】

(3) 本時の ICT 活用のポイント (活用のねらい、工夫する点)

本グループは視覚優位の生徒が多い一方で集中して見るということに課題のある生徒も多い。そのため作業の手順を画面に映して提示することで注目する場所をわかりやすくし、集中しやすいように工夫している。モニターを使用し、大画面に映すことで作業の細かい様子まで視聴できるようにした。教員の手本の際には、書画カメラを使用して教員の手元がより見やすくなるように工夫している。

手洗いの順番を決める際にくじびきのアプリを使用することで毎回異なる相手に「どうぞ。」と伝えることができるような仕組みを取り入れて楽しめるように工夫している。

(4) 生徒の実態と本時の目標

	生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・不器用な面があるが、作業に意欲的に取り組むことができる。 ・作業の修正を受け入れることができる。 ・教員に促されると「〇〇先生、できました。」と報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から「〇〇先生、できました。」と報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を本時の目標としてホワイトボードに提示して意識できるようにする。 ・ヒントを出すなどしながら自分から言えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を教員に見せる際に「〇〇先生、できました。」と伝えることができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援があれば作業手順を理解して一人で取り組もうとする。 ・教員に促されると「〇〇先生、できました。」と報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から「〇〇先生、できました。」と報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を本時の目標としてホワイトボードに提示して意識できるようにする。 ・ヒントを出すなどしながら自分から言えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を教員に見せる際に「〇〇先生、できました。」と伝えることができる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な支援があれば全体指示で行動することができる。 ・丁寧に作業に取り組むことができる。 ・教員に促されると「〇〇先生、できました。」と報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から「〇〇先生、できました。」と報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を本時の目標としてホワイトボードに提示して意識できるようにする。 ・ヒントを出すなどしながら自分から言えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を教員に見せる際に「〇〇先生、できました。」と伝えることができる。

IV 教職員の研究授業

D	<ul style="list-style-type: none"> ・不安になると何度も質問や確認を繰り返すことがあるが納得すると切り替えることができる。 ・視覚支援があれば作業手順を理解して取り組もうとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で作業を行い、作品を完成させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備する物や片付ける場所などをわかりやすく提示する。 ・繰り返し行うことで、一人でできる場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の始まりから終わりまでを一人で取り組むことができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指示を理解して行動することができる。 ・キーホルダー作りに意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに工夫して作品を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使うレジン液や装飾を自分で選択する機会を設ける。 ・前回の作品を見せながら工夫している点などを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・装飾やレジン液の量を調整しながら作品をつくることができる。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指示を理解して行動することができる。 ・手先の不器用さはあるがキーホルダー作りに意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに工夫して作品を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使うレジン液や装飾を自分で選択する機会を設ける。 ・前回の作品を見せながら工夫している点などを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・装飾やレジン液の量を調整しながら作品をつくることができる。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指示を理解して行動することができる。 ・慎重なため作業が遅れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でレジンの作品を完成させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備する物や片付ける場所などをわかりやすく提示する。 ・繰り返し行うことで、一人で出来る場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の始まりから終わりまでを一人で取り組むことができる。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指示でわからないときには周りに聞いたり手助けを求めたりすることができる。 ・キーホルダー作りに意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から「できました。」の報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を本時の目標としてホワイトボードに提示して意識できるようにする。 ・ヒントを出すなどしながら自分から言えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を教員に見せる際に「○○先生、できました。」と伝えることができる。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指示でわかりにくいときには周囲に聞くことができる。 ・キーホルダー作りに意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から「○○先生、できました。」と報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を本時の目標としてホワイトボードに提示して意識できるようにする。 ・ヒントを出すなどしながら自分から言えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を教員に見せる際に「○○先生、できました。」と伝えることができる。

IV 教職員の研究授業

J	<ul style="list-style-type: none"> 全体指示では理解が難しく教員の言葉かけがあれば行動することができる。 集中して取り組むことが難しく作業が遅れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備と片付けを自分で行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備する物や片付ける場所などをわかりやすく提示する。 繰り返し行うことで、一人でできる場面を増やす。 集中が難しいときにはT2が言葉かけをし、支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に必要な道具を集め、作業終了後に元の場所に返すことができる。
K	<ul style="list-style-type: none"> 手先が不器用で教員のサポートを受けて作品づくりに取り組んでいる。 キーホルダー作りに興味を持って取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備と片付けを自分で行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備する物や片付ける場所などをわかりやすく提示する。 繰り返し行うことで、一人でできる場面を増やす。 作業が難しいときにはT2と一緒に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に必要な道具を集め、作業終了後に元の場所に返すことができる。
L	<ul style="list-style-type: none"> 全体指示を理解して行動することができる。 何事も意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに工夫して作品を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使うレジン液や装飾を自分で選択する機会を設ける。 前回の作品を見せながら工夫している点などを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 装飾やレジン液の量を調整しながら作品を作ることができる。
M	<ul style="list-style-type: none"> 手先が器用で物を作る作業が好き。 全体指示で動けるが、予期せぬことがあるとパニックになる。 現在、長期欠席している。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味を持って作品を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使うレジン液や装飾を自分で選択する機会を設ける。 前回の作品を見せながら工夫している点などを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品を完成させることができる。

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> くじを引き、決まった順番に手洗いをする。 順番に手洗いをする。 終わったら名札を裏返し次の人に「次どうぞ。」と伝える。 最後の生徒はT1に終了の報告に行く。 待っている間に作り方の動画を見て、工程を復習しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「次、どうぞ。」の台詞と最後の生徒は終了の報告に来ることを確認する。 難しい生徒には声をかけるなどして支援する。(T2) 	【C①】 【C②】

IV 教職員の研究授業

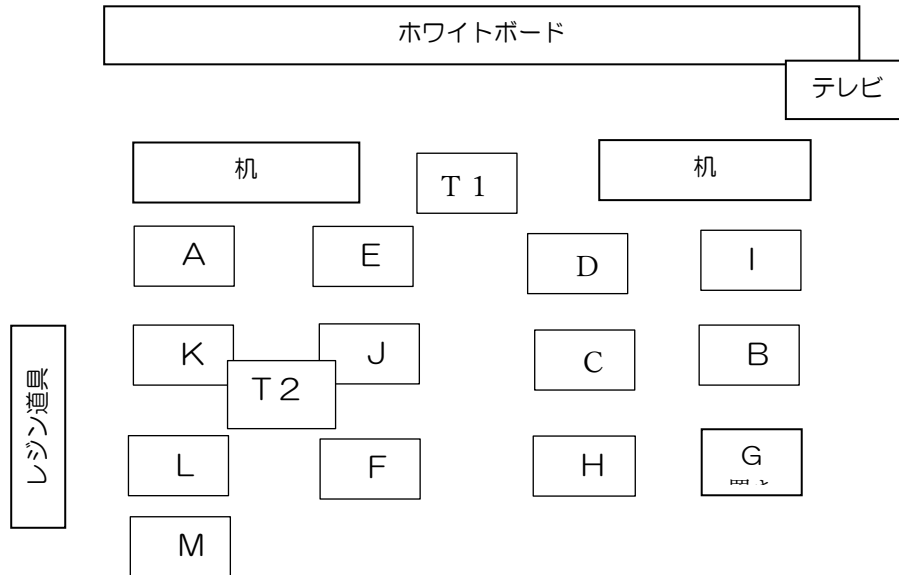
	<p>あいさつをする。 ・教員の号令に合わせてあいさつをする。</p> <p>授業内容の説明を聞く。 ・今日の目標を知る。 ①準備と片付けを一人で行おう。 ②「〇〇先生、できました。」と言おう。 ③素敵な作品を作ろう。</p>	<p>・姿勢や目線などに注意しながらあいさつをする。 ・教員に注目できているか確認してから号令をかける。</p> <p>・ホワイトボードに3つのルールを示す。 ・「できました。」と報告することを確認する。 ・報告する場所に足形の目印を置く。</p>	
<p>30分 展開</p>	<p>作業工程を確認する。 ・教員の見本を見る。</p> <p>必要な道具を準備する。 ・終了時間をタイムタイマーで確認する。 ・名前を呼ばれた生徒から順番に準備する。 ・箱から必要な道具を1つずつ取って席に戻る。</p> <p>準備物を揃えたら各自制作を始める。</p> <p>作品が完成したら作品をUVライトのところへ持って行き、教員にUVライトで硬化してもらう。 ・「〇〇先生、できました。」と報告する。 ・作品を教員に渡し、修正箇所をチェックしてもらう。</p>	<p>・書画カメラを使用する。 ・教員の手本を映して見せる。 ・生徒たちが注目できているか確認しながら説明する。 ・注目できていないときは声をかける。 ・レジ液の量などのポイントを簡潔に伝える。</p> <p>・タイムタイマーを設定して終了時間を知らせる。 ・姿勢を正して準備ができた生徒から呼名する。 ・箱から順番に道具を取っていけるように並べておく。 ・選択が難しい生徒には教員が提案するなどして支援する。(T2)</p> <p>・道具の準備ができたなら制作を始めるように伝える。 ・T2は主にJ、Kの生徒の様子を見て言葉かけを行う。</p> <p>・自分から「〇〇先生、できました。」と報告するように伝える。 ・修正が必要などときには本人に説明する。</p>	<p>【A②】</p> <p>【A①】 【A②】</p> <p>【B①】</p>

IV 教職員の研究授業

	<p>片付けをする。 ・道具を一つずつ元の箱にもどしていく。</p> <p>ひまわりの観察日記をつける。 ・片付けが終わった生徒から自分で前の机にあるプリントを持っていく。 ・ひまわりの絵と変化などをプリントに記入する。 ・できたら提出カゴに出す。</p> <p>時間が来たら作業を終え片付けをする。 ・道具を元に戻す。 ・プリントは提出ボックスに入れる。</p>	<p>・道具の返却場所がわかりやすいように箱などを利用する。 ・1つの箱に1種類の道具を入れておき、同じ物を返却するようにしてわかりやすく提示する。</p> <p>・書くのが難しい生徒にはヒントを出したり一緒に数えたりしながら支援する。(T2) ・修正点があれば具体的に説明する。</p> <p>・タイマーが鳴ったら片付けをするように声をかける。</p>	<p>【A②】</p>
<p>10分 ま と め</p>	<p>作品の鑑賞をする。 ・教員の「せーの。」の合図に合わせて「いいね。」と声をかける。</p> <p>次回の説明を聞く。</p> <p>あいさつ ・教員の号令に合わせてあいさつをする。</p>	<p>・書画カメラを使用して各自の作品を順に映す。 ・よい点や工夫している点を伝える。 ・「せーの。」と合図し「いいね。」とみんなで作品を賞賛し、達成感につなげる。</p> <p>・次回の予告を簡潔に伝える。</p> <p>・姿勢や目線などに注意しながらあいさつをする。 ・教員に注目できているか確認してから号令をかける。</p>	

IV 教職員の研究授業

□教室配置図



□板書計画

てあらい

あいさつ

きょうのせつめい

① レジンづくり

② ひまわりのかんさつ

きょうのもくひょう

○じゅんび、かたづけをじぶんでしよう。

○「〇〇せんせい、できました。」とほうこくしよう。

○すてきなさくひんをつくろう。

つくりかたのせつめい

さぎょう

かたづけ

おわりのあいさつ

Ⅳ 教職員の研究授業

中学部研究授業「職業」(しょくぎょう2) 研究協議

●授業者：本校教諭 芦田麻美

●助言者：本校指導教諭 藤木奈緒子

聞き取り：研究支援部

◎ 授業者より

・授業が始まる前に準備物の写真を提示し、生徒たちに授業準備をしてもらっている。また材料を用意する際、一つの箱に対して一つのものを取っていくことを設定している。これはモンテッソーリ教育のエッセンスを取り入れている。子どもは自分で自分を成長させる力がある。本来手伝いも大好きである。子どもが自由に選んで仕事ができる点が良いと思っている。完璧に準備された中で行う手伝いはよくあるが、モンテッソーリ教育では一から十まで全部自分たちでやりきる。子どもたちが一目見て何がどこにあるか理解できることなど、構造化された環境設定を意識している。

・くじ引きアプリを使って、手洗いの順番を決めている。生徒たち同士の関わり合いを大切にするため、次の順番の友だちの肩をたたいて伝えることをしている。この活動は、一人1分程と、時間がかかるので、同時に動画を流して待ち時間がなくなるように工夫している。

・目標発表は、書画カメラでモニターに映して伝えている。いつでも見られるようにしたいものはホワイトボードへ、集中して見せたいものは大型TVのモニターに映す、といったように目的に応じて提示方法を変えている。

・全体ではモニターに手順を順番に映して説明しているが、経時処理が苦手な生徒に対しては、手順書を渡して同時処理ができるようにしている。

・「できました」の報告をどこでするかわかりやすくするための視覚支援として、足形を用意している。

・鑑賞では、最後にみんなで「いいね」と言うようにしている。一番伝わりやすい評価で、みんなからわかりやすい点が良いなと思い、取り入れている。

◎ 助言者からの感想や助言

・様々な視覚支援やモンテッソーリの理念、個別の支援などたくさんの工夫があった。

視覚支援では、足形やBOXの使用、また手順表などにも工夫があった。今後も教員の指示を待つことなく、自分で判断しながら授業に参加できるような工夫をしてほしい。

・学校ブログの活用など、いろいろなところに興味を持ちながら、本校の生徒たちにどう取り入れていくかも考えられていた。今回生徒たちが作った作品を学校ブログを通して、将来的には販売に繋げていけたらということも考えられている。人生、余暇活動、お給料、そういったところまで考えられている点良かった。是非、取り組んでほしい。

・TEAM TEACHING：それぞれの立場での動きがとてもうまくいっていた。

「職業」(進路) 学習指導案

大阪府立豊中支援学校

T 1 森本 晃介

T 2 藤木 奈緒子

1. 日時 令和4年12月19日(月) 第3時限(10:25~11:15)

2. 場所 3階学習室

3. 学部・学年・組 高等部 第1学年 学習Aグループ 10名

4. 題材名 「自分や友だちのことを知ろう！」

5. 題材目標

- ・集団の中で役割を果たし、ルールを守ることができる。【知・技】
- ・自分の考えや思いを伝えることができる。【思・判・表】
- ・自己や他者理解を深めるために、協同しようとするすることができる【学・人】

《特別支援学校 高等部学習指導要領 職業 第2段階》

6. 生徒観

本グループは高等部1年生の10名で構成されている。日常における簡単な活動については、全員がことばを用いてのコミュニケーションが可能であり、教員のことばによる一斉指導も可能である。しかし、コミュニケーション面や感情面での不安を抱える生徒が多く、今までにいろいろなトラブルを経験し成功体験が少ないために自尊感情が低く、他者への警戒心が強い。したがって、社会性の育成や自己の感情をうまくコントロールすることに課題がある。本グループの生徒の課題は多いが、コミュニケーション面での課題を理解し、克服・改善しようとの思いを持っている。集団の中で活躍し他者から認められることで、自分を語るできるようになりつつある。そして、この授業では教員が生徒に寄り添いたいと試行錯誤する中で、教員と生徒の信頼関係の構築を進めている。

7. 教材観

本教材は、広島大学の研究グループが中心になって提唱しているマルチレベルアプローチ(MLA)を参考に授業で設定を行った。MLAとはSEL: Social Emotional Learning(社会性と情動の学習)とPBIS: Positive Behavioral Interventions and Supports(ポジティブな介入と支援)、ピア・サポート(相互に支えあい、課題解決する活動)そして協同学習(生徒たちだけでなく教師とのコミュニケーションを促し、新たな創造や発見を行う)の4つの柱を中心にした包括的な指導体系のことである。感情面について学び、望ましい価値観と行動について実践的に学ぶことができる。さらに生徒と教員が共に学びあい、お互いを支えあう関係づくりをめざしている。個の成長と集団の成長が相互に作用し合う状態を作り出すことで、生徒の全人的な成長を促すことができる教材であると考えている。

IV 教職員の研究授業

8. 指導観

本グループの生徒の実態を踏まえ、対人関係についての学びを軸に置く。職業生活を送るためには、自己の特性を理解し、あらゆる場面で柔軟に対応することが求められる。これらの力を育むためには、他者との学び合いを通してコミュニケーション力を身につけていくことが求められる。これらの力を育むために、他者との学び合いや一人ひとりに役割を与え、活躍できる場を設定していくことを行う。その中で自分の考えを他者に伝えることで、他者の存在を通して自己理解ができるように促す。そして、視野を広げ柔軟な考えや他者への思いやりの精神を養う。教員は、些細なことでも生徒を前向きに勇気づける指導を心がける。加えて、生徒が授業中にやるべきことを事前に伝えておくことで、生徒が成功体験を味わうことができるようにする。

9. 題材の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①役割を果たす。 ②ルールを守る。	①自分の意見をことばや文章で伝えようとする。	①友だちの発言を聴くことができる。 ②自己の頑張りに気づくことができる。 ③友だちと協力して意見をまとめようとする。

10. 題材の指導と評価の計画（全8時間、本時は第6時）

次	時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1	・自己の感情と向き合う。 ・友だちの感情を知る。	・ワークシートを使い、今の自己の感情を整理して記入できるようにする。 ・グループは生徒の相性などを考えて事前に決めておく。	B①
	2 3			A①
2	4	・コミュニケーション力獲得のためのトレーニングを行う。	・グループワークの司会やメモ係、友だちへのフォロー係等の役割をその場で決めるように伝える。 ・トレーニング内容を生徒と教員による話し合いで決める。	A②
	5			C③
	6			B① C① C②

IV 教職員の研究授業

3	7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の怒りの仕組みについて理解する。 ・友だちの怒りについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使い、怒りがどのような時、どれ程生じるかを整理して記入する。 ・輪になり、自己の怒りについて友だちに説明する。 	B① A① C①
---	--------	---	--	--------------------

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・友だちに自分の意見や想いを伝えようとしている。
- ・友だちの意見を聴き、友だちのことを理解しようとすることができる。
- ・友だちへの感謝の気持ちを文字に表すことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・自分の意見をことばにして伝えようとすることができる。(B①)
- ・友だちの発表を最後まで聴こうとしている。(C①)
- ・自分の授業での頑張りを振り返ろうとする。(C②)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・iPad 2台、ポジティブカード

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言をしようとし、友だちへの配慮もできる。 ・情緒面に課題があり、不安定になると発言が攻撃的になることや授業に集中できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに自分の想いを伝えることができる。 ・友だちに明るく接する事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に手引書を作り、円滑に司会ができるように促す。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかなことばで発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴こうとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の想いや友だちへの感謝の気持ちを丁寧に伝えようとしている。 ・人前で積極的に発言することは苦手であり、一人での作業等でも集中力が欠ける場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに発言しようとする事ができる。 ・友だちの意見を前向きに聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言することを努力するように促す。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言をしようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴こうとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。

IV 教職員の研究授業

C	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて授業に参加し、穏やかで誠実な部分があり、友だちとも良い関係を気付くことができている。 ・やや理解力に欠ける面があり、指示が伝わりにくいこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに自分の想いを伝えることができる。 ・友だちに明るく接することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に手引書を作り、円滑に司会ができるように促す。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴き、友だちへ反応しようとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・最も積極的に発言しようとする生徒である。他者への配慮もしようとし、グループ全体のことも気かけようとしている。 ・一方で友だちへの警戒心が強く、友だちへの言動が強くなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに自分の想いを伝えることができる。 ・友だちに穏やかな態度で接することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業からフォローワーシップが身につくようにトレーニングを重ねられるようにする。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかなことばで発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴こうとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の状況を的確につかむことができ、状況に応じた言動もできる。授業の全体の雰囲気柔らかくすることができる。 ・体調不良が続いており、欠席が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに自分の想いを具体的に伝えることができる。 ・友だちの意見に積極的に反応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業からフォローワーシップが身につくようにトレーニングを重ねられるようにする。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴き、友だちへ反応しようとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に積極的に授業に取り組もうとすることができており、友だちにも優しく振舞うことができている。 ・情緒面に課題があり、友だちの言動を必要以上に気にしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに自分の想いを伝えることができる。 ・友だちに明るく接することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に手引書を作り、円滑に司会ができるように促す。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴き、友だちへ反応しようとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。

IV 教職員の研究授業

G	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの意見を聴こうと努めることができ、意見に反応をしようと努力している。 ・自分の意見を友だちに伝えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに発言しようとするができる。 ・友だちの意見を前向きに聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言することを努力するように促す。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言をしようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴こうとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと積極的にかかわろうとし、友だちへのサポートもしようとしている。 ・情緒面に課題があり、不安になると感情的になり、言動が攻撃的になることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別フォローの役割をこなすことができる。 ・友だちに自分の想いを伝え、友だちの意見に積極的に反応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業からフォローワーシップが身につくようにトレーニングを重ねられるようにする。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴き、友だちへ反応しようとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな性格で周囲のサポートを受け、積極的に授業に参加しようとしている。 ・自己の意見を伝えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに発言しようとするができる。 ・友だちの意見を前向きに聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言することを努力するように促す。 ・日頃の授業から友だちとコミュニケーションを重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴こうとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席が続いている。今年度は1度も進路の授業に出席できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに発言しようとするができる。 ・友だちの意見を前向きに聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言することを努力するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言しようとしている。 ・友だちの話を最後まで聴こうとしている。 ・自分の頑張りを振り返ろうとしている。

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準
5分 導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・担当生徒がホワイトボード前に立ち号令をかけ、全員で始まりのあいさつを行う。 ・生徒Cが出席確認を行う。 ・生徒Cが本時の流れを発表 	<ul style="list-style-type: none"> 担当生徒が円滑に司会をできるように手引書を与え、それに従って司会を行うように促す。 担当生徒に名簿を渡し、クラスごとに名前を「○○さん」と呼ぶように事前に確認する。 担当生徒が本時の流れを説明できるように事前 	行動観察

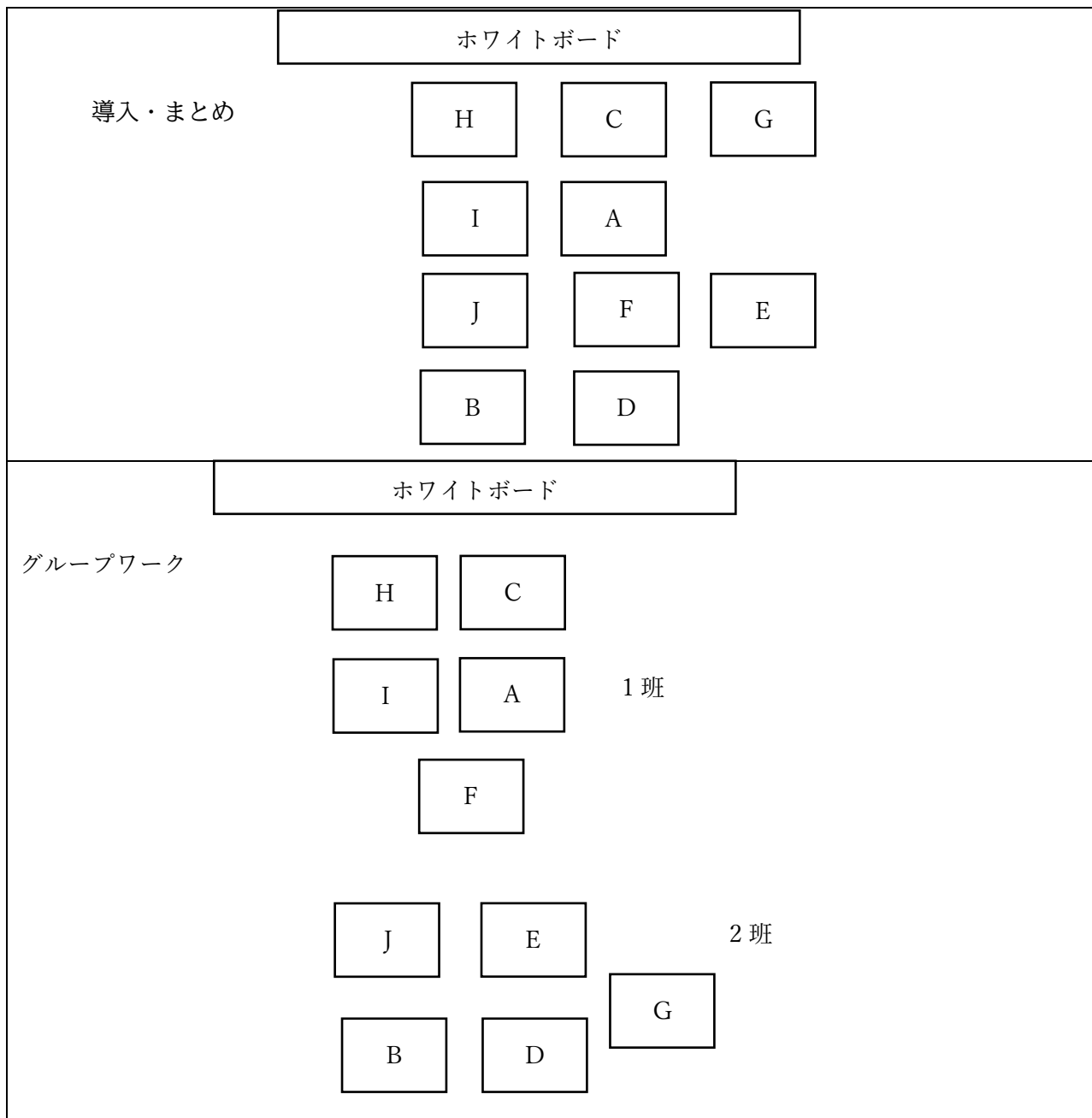
IV 教職員の研究授業

	する。	に確認する。	
30分 展 開	<p>○活動1(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動1の体制になる。 ・グループでコミュニケーション力獲得のためのトレーニングを行う。(活動1) 「どっちが好き？」 ・タイマーの音で活動①を終わる。 <p>○活動2(全員でのコミュニケーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当生徒が活動2の指示を出す。 ・活動2(輪)の体制になる。 ・全員でコミュニケーション力獲得のためのトレーニングを行う。(活動2) 「友だちのいいところをさがそう！」 ・タイマーの音で活動2を終え、元の体制に戻す。 	<p>事前にグループのメンバーと座る位置、役割を決めておく。</p> <p>各生徒の役割(司会、メモ係(iPadを使用)まとめ役、フォロー役、発表に集中する等)を考慮することで、集団の中で何をすべきかを明確化する。</p> <p>選択肢があるコミュニケーションテーマを複数あげておき、グループで選択し何を話すかを明確化する。</p> <p>15分後にタイマーを設定する。</p> <p>事前に座る位置、役割(司会、まとめ役、フォロー役、発表に集中する等)を決めておくように指導する。</p> <p>「友だちのよいところ探しをしよう！」というテーマを活動2に設定し、全員で話しやすい雰囲気を作るように促す。</p> <p>15分後にタイマーを設定する。</p>	<p>B① C①</p> <p>B① C①</p>
15分 ま と め	<p>○活動3(ポジティブカードの記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードに友だちへのメッセージを記入し、今回は友だちに渡す。 ・カードを読み、自分の頑張りを振り返る。 	<p>全員がカードをもらえるように、誰が誰に書くかをT1が指定する。</p> <p>感謝に加え友だちが具体的に頑張ったところを書くように促す。</p>	<p>B① C②</p> <p>行動観察</p>

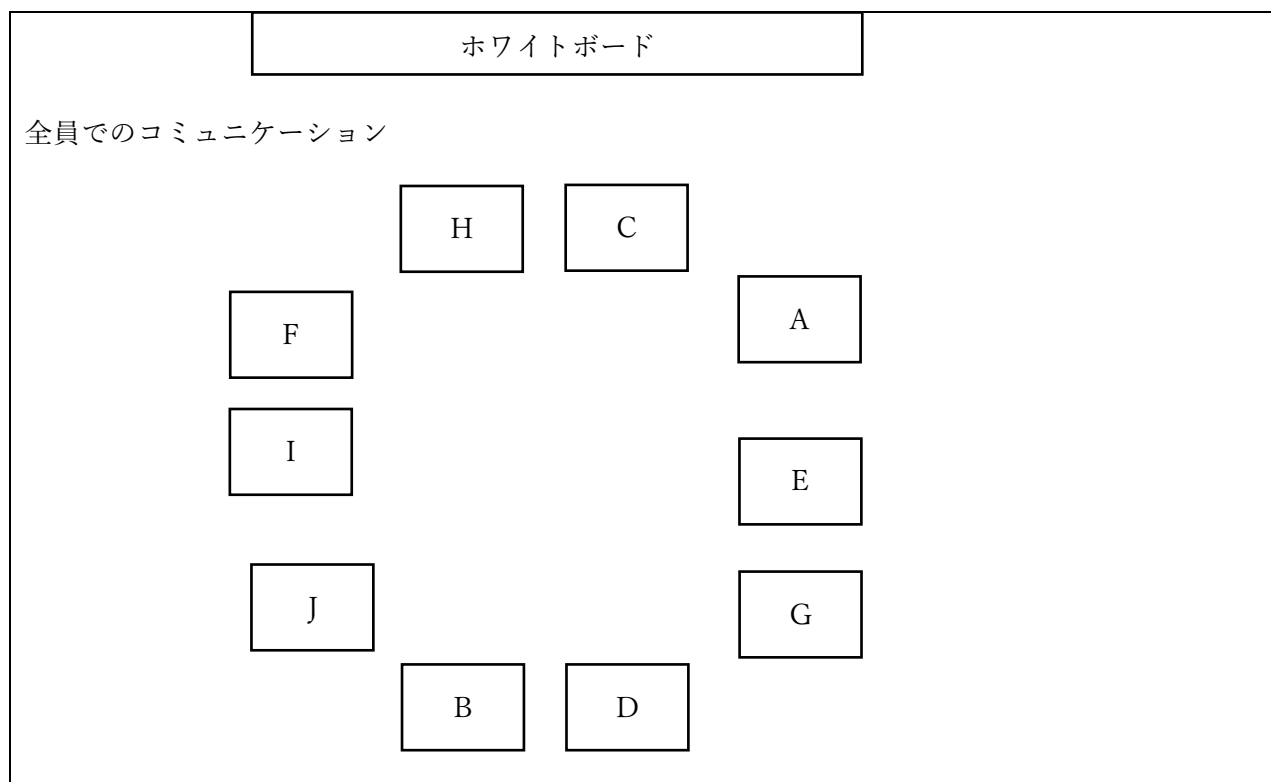
IV 教職員の研究授業

<ul style="list-style-type: none"> ・担当生徒が授業の感想を代表して言う。 ・T1 の話を聴く。 ・担当生徒がホワイトボード前に立ち号令をかけ、全員で終わりのあいさつを行う。 	<p>担当生徒には事前に感想を発表してもらうことを伝えておく。</p> <p>T1が授業での頑張りを伝え、今後の予定を伝える。</p> <p>担当生徒が円滑に司会をできるように手順書を作り、それに従って司会を行うように促す。</p>	
---	--	--

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



IV 教職員の研究授業



IV 教職員の研究授業

高等部研究授業「職業」(進路) 研究協議

●授業者：本校教諭 森本晃介

●助言者：本校指導教諭 藤木奈緒子

聞き取り：研究支援部

◎ 授業者より(授業のビデオを見ながら説明、解説)

- 極力、教員が進めるよりも、生徒中心に進めていけるように促している。
- 落ち着きのない生徒も課題や役割を用意することで、落ち着いてコミュニケーションをとることができた。
- 久しぶりの登校の生徒も、他の生徒の話の聞いたり、フォローしたりする姿勢が見られた。
- 「どっちが好き?」「友だちのいいところを探そう!」というテーマは教員ではなく生徒が発案のテーマ。
- 話が苦手な生徒のところには、教員の指示なしに手伝ってくれる生徒が複数いた。お互いに支えあうことを指導してきたため、教員の指示なしに自ら助けに行く姿を見られて、うれしかった。
- 毎回の授業で、「君たちと一緒に勉強できて幸せ」ということを伝えている。感謝の気持ちをもって接することを常に心がけている。

◎ 助言者からの感想や助言

★学部の研究授業、研究協議は、若手教員にとっては「ミドルリーダーの教育実践を知る」、ベテラン教員にとっては「日頃の教育授業の振り返る」ことで、学部全体の授業力UPにつなげてほしい。

• マルチレベルアプローチ (MLA)

個人の成長に焦点を当てた対人関係能力育成 (SEL) とポジティブな行動介入と支援 (PBIS)。集団の成長に焦点を当てた共同学習とピアサポートの4つがあり、この授業ではMLAを根底に置きながら、特にPBISとピアサポートを取り入れている。

• ポジティブな行動介入と支援 (PBIS)

例えば、活動を禁止するのではなく「期待行動を教えて、認める」場当たりの対応ではなく、「期待行動の支援を日頃からする」ということに重点を置いた支援をされている。

• ピアサポート

進路の授業の際、毎時間のポジティブカード記入では相手の良かったところを書いて、お互いに評価する。生徒はみんな自分のいいところを書いてもらえるのを楽しみにしている。積み重ねの中で、授業中の良かった点だけでなく、普段の行動を見てほめ合うようにもなってきた。グループの友だちに興味を持つとともに、絶対にいいことを書いてくれるという安心感と何を書いてくれるんだろうというワクワク感も手伝って、授業にも集中できるようになってきているのだと感じている。

- 生徒たちにとっては「自分の良さを再確認」できる時間にもなっており、そこから「自分の将来、自分の進路に向き合う心を育む」時間になってきている。

豊中支援学校 キャリア教育6観点とその内容項目（R3年10月28日確定版）

	項目	小項目	内容
1	コミュニケーション力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【コ-○】	発信	①あいさつをすることができる。 ②自分の要求・意思を伝えることができる。 ③自分の意見を伝えることができる。 ④報告、連絡ができる。
		受信	⑤呼名に応じることができる。 ⑥話を聞き、理解できる。
		関わり	⑦身近な大人に関わることができる。 ⑧友だちと関わることができる。
2	協調する力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【協-○】	集団	①集団に参加できる。 ②協力できる。
		自己	③気持ち(意思)を表出することができる。 ④我慢できる(耐性)。
		対人	⑤他者の要求に適切に応じたり、拒否したりすることができる。
3	ルール理解・遵守力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【ル-○】	社会のルール	①人を傷つけない行動をする。 ②法律を遵守する。
		公共の場面	③丁寧な言葉を使うことができる。 ④順番を守ることができる。 ⑤場面に合わせたマナーを身につけることができる。 ⑥その場に適した服装をすることができる。(TPO) ⑦場に応じて身だしなみを整えることができる。 ⑧電車、バス等を利用することができる。
		日常生活	⑨時間を守るすることができる。 ⑩買い物をするすることができる。 ⑪道具を正しく使うことができる。
4	健康管理力 (自己理解・自己管理能力) 略号は【健-○】	食事	①食事量、食べる速さを調節することができる。 ②偏食を改善することができる。
		更衣	③衣類の調節ができる。
		排泄	④定期的に排泄を行うことができる。 ⑤排泄の処理を行うことができる。
		清潔	⑥手指を清潔に保つことができる。 ⑦口腔の清潔を保つことができる。 ⑧感染を予防することができる。
		生活リズム	⑨起床、就寝時刻を自己管理できる。
		運動	⑩運動習慣を身につけることができる。
		不調への対応	⑪不調を訴えることができる。 ⑫手当てができる。 ⑬自らクールダウンすることができる。
		余暇の活用	⑭充実した余暇を過ごすことができる。
5	役割遂行力 (課題対応能力) 略号は【役-○】	認識・理解	①物を扱うときの基本動作ができる。 ②学年、クラス、グループ等に属していることを意識できる。
		遂行	③実習先や異なる年齢間での立場を理解できる。 ④係り、当番、代表等の仕事を遂行できる。 ⑤準備、後片付けができる。 ⑥安全に配慮して活動することができる。 ⑦急な役割変更に対応し、遂行することができる。 ⑧目的地まで移動することができる。
		評価	⑨評価を受け入れて、実行力を高めることができる。 ⑩適正に自己評価することができる。
		発展・改善	⑪役割遂行することができないときに、助けを求めることができる。 ⑫作業のミスに気づき修正することができる。
6	見通し、行動する力 (キャリアプランニング能力) 略号は【見-○】	目標設定力	①様々な情報から必要なものを得ることができる。 ②見通しを立てて行動することができる。 ③自己選択・自己決定することができる。 ④自分の長所・短所、得意・不得意を知る(自己理解)ことができる。
		将来を描く力	⑤見学や実習をとおして、卒業後の進路(生活)を考えることができる。

指導計画等に示すときの略号は、例えば【1コミュニケーションの③】の場合は最初の一文字を取って【コ-③】とする

あとがき

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始め、はや3年が経過しました。この間、学校現場では対応に追われ、特に支援教育においては児童生徒との距離感も近く、日々の取り組みに苦心しながら実践にあたってきました。

数多くあるものの一部ですが、本年度の研究・実践について研究紀要にまとめ、無事に発行することができました。支援教育に携わる多くの方にご覧いただき、授業づくりの一助にいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、研究にあたり、ご指導ご助言いただきました先生方に、心よりお礼申し上げます。

教頭 内田 紘允

